二重通訳に大弱り

民族意識の高いドイツ人

宮川組合長 欧亜旅行記（39）

十一月九日早朝六時に起されて、私たちはこれから一路ベルリンに向うことになった。

よく整備の行き届いた夜明けの舗装道路を自動車で約四〇分にてモスクワ飛行場に到着。天候の加減で予定より若干遅れ、われわれ一行三五名は、二機の飛行機に分乗してモスクワ飛行場を飛立つた。

私は先発隊として一番機に搭乗した。ソ同盟中央評議会の幹部、通訳諸君が相当数見送りにみえ、われわれの出発に際しては盛んに手を振つて別れの挨拶をしてくれた。

思つたより天候はよく約二時間にしてポーランドのワルシャワに着陸した。

この飛行場の周囲にある建物は、まだ戦争で破壊されたそのままの生々しい残がいを残していた。

飛行場の中の休憩室も、今まで私たちが通つて来たどの飛行場よりも殺風景で、簡単な板のいすが置かれてあつた。

しばらく休憩して再び飛行機に搭乗、昼食を頬ばりながら眼下の東欧の田畑や街を見おろしているうちに、約一時間半ばかりしてベルリンの飛行場に到着した。

そこには東独の労働組合幹部の方々が多数、花束を沢山持つて、われわれを笑顔で出迎えてくれた。写真班のフラッシュを浴びながら固い握手を交わした。

私たちは、そこでまずドイツ人がわれわれを迎える態度に非常に誠意がこもつていて、しかも何と云く親近感を覚えた。

飛行場の前にある大きなレストランに案内されたが、そこでも意外に感じたのは、日本の日の丸の国旗と、ドイツの国旗が交互にテーブルの上に飾つてあつたことである。

また私たちを迎えに来た自動車にも日の丸の旗がひるがえつていた。

ドイツ人の民族意識の強さというか、われわれは日本で日の丸を忘れ、外国に来て日の丸を思い出した、というような感にうたれた。この日の丸の旗は、すつとあとまで続くが、労働組合中央本部の会議室でいろいろと懇談した際にも、正面には大きな日の丸の旗とドイツ国旗が二本飾られ、テーブルの上にも小さいこの二つの旗が交互に飾られていて、われわれは更に深く考えさせられた。

ドイツ人が、日本の国旗が日本民族の象徴として敬意を表示した意味であろうということは十分感じられた。

話は戻るが、レストランで昼食事をしてから、国鉄の横山氏と私は先発してホテルに向い、通訳諸君らと部屋の割りふりをすることになつた。

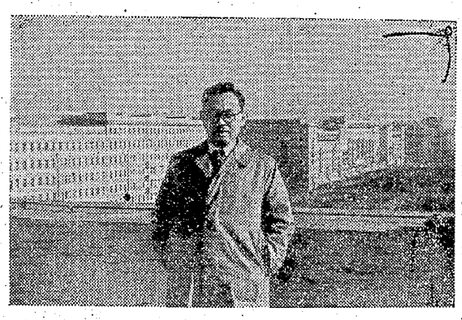
広い田んぼ、湖、小さな街、農村を通つて約五〇分、きれいな湖の畔りにあるホテルについた。ここが、今後われわれが宿泊するホテルであつた。

ここは東ベルリンから相当離れたキエンバーウンというところで、非常に景色がよく、夏は避暑客でにぎわいになるということであつた。

私たちが、いろいろと部屋の割りふりを決めている間に、後続隊が到着した。

大体、ドイツには四日間滞在して、少くとも十三日にはウイーンに立つ予定になつていた。この四日間のうち、工場見学、ベルリン市内見学、孤児園、福利施設、その他の名所古蹟を見学するということに意見の一致を見た。

産業別の懇談会を持とうという話もあつたが、通訳の員数に制限があり、バラバラに持つということは困難なので、最後の晩に各組合の代表に来て貰つてこのホテルでゆいゆいに懇談しようということになつた。



その夜は、ドイツ労働組合の歓迎レセプションが、このホテルで開かれた。

今まで、私たちが通つて来たところには、直接日本語を話せるソ連人や中国人がいたので通訳は至つて簡単であつたが、このドイツに来た途端に、英語、またはフランス語に訳して、更にそれをドイツ語に訳すので、二重、三重の通訳が必要であつた。そのため、まずわれわれの団長が挨拶すると、それを、われわれの同僚である通訳がフランス語で話す。それをドイツのフランン語の通訳が、ドイツ語に訳して話すという手間がかゝるので、いくら力の入つた言葉でも、間が抜けたようなものになり、非常に不便であつた。

向うの話を、こちらに受けとる場合も同様であつた。

しかし、そういう不便は別問題として、お互いが非常に愉快なふんいきの中で乾杯を重ね、語り合つた。

☆　☆

（写真）労働者住たく屋上よりベルリン新市街をのぞむ。

街頭カンパに乗出す

年末年始助け合い運動

……苦しい生活で死線をさまよつている人たちに、せめても「明るい」年こしをしてもらいたい。そのためにはわれわれ組織労働者が先頭になり温い助け合いの手をさしのべ物心両面の援助をして行こう……と年末年始助け合い運動が大牟田地区では大地評を中心に各単産から集つて街頭募金に乗り出した。

助け合い運動期間を十二月十日から（判決を無効として二審の死刑判決）十一日、一月五日から三十一日の二回に分けられており、大地を提出しているが、一部では年内評では二十二日三川町県境、二十三日大牟田駅前、二十四、五日築町の街頭に進出して、中小炭鉱の組合を訪ねる写真や統計、グラフなども展示し通行人に訴え広く資金カンパを募つた。

なおこの街頭カンパと同時に三鷹事件裁判やりなおしの著名運動も併行して行つた。

ご承知のようにこの十二月二十二日は三鷹判決通知と松川判決の忘れられぬ日であり、去年六月二十二日、三鷹事件竹内景助氏に死刑の判決があつてから、七月二日に松川事件被告全員に死刑の判決が出てから、十月二十四日の第三審の鉄道官舎に住むまさ子ちゃん（小学二年）次男毅君（小学一年）三男俊介君（小学一年）と五人の子供をかゝえ、七年間の長い間、刑務所にいる竹内氏の留守を守つてきた。いまでは一あと押しを奥さんが手伝い、幾ら生活保護の金をほとんど借金に回され、手許に残らなくなる。食べていくのが精一ぱいで乗きをひかえ正月を間近にいろいろと悩みがなく「不景気」をこぼしているが、そのほかは一日働きに野菜車のを聞いていた。長女の芳子さんも十二月六日総労本部で開催中の労働部長会議では引続く炭鉱災害の実情を説明し、打続く炭鉱災害の原因は生産を第一に考えているからと思うがどうか

大臣＝生産も大切だが保安も大切だ

組合　保安と生産は何れが先か

大臣　保安も大切であるがそのために生産を無視することは出来ない

組合　そんなことでなく、先づ安心して働けるような職場にすることが第一で、次に生事だと思うがどうか。車の両輪の如くでなく自転車の前輪と後輪の場合保安はその前輪だということだ

大臣　表現の仕方はいろいろあろうが、私も生産のために保安をないがしろにすることは許されないと思うし、諸君の云われるように保安が一番大切だとは何時も考えている

組合　再度念を押して、災害の場合常に責任を現場の者に負わしているが、かゝる災害を防ぐために国民の税金で出来ている監督官の責任はどうなるか

大臣　よく調査しておりますが、監督官に手落があれば厳重処罰する

組合　地方の行政官庁は常に予算に縛られて動けないでいるというが？

大臣　三十一年度は思い切つて予算化するよう努力する

組合　瞬々として災害が起ることは法にも欠陥があると思うが保安法改正をやる意志があるか？

大臣　必要があればやりましようしかし坑内保安問題については監督官も会社も考え方を変えてもらわなければならん

組合　労働者に対する保安の教育は会社まかせでなく監督官がやる位の心構えがあつてほしいと思うが？

大臣　会社の幹部を最近集めて厳重に注意はしたが、末端まで届くよう考えたい

組合　保安監督部は会社にのみ連絡して組合とは何等話し合もせず馴合いの監督だが、この点局長はどう指導しているのか

局長　法には無いけれども保安は働く人が一番身近かな人であるために常に組合とも話合うように通達してあるが、ある所では御指摘のような所があつたようだ。更に厳重に注意する

組合　監督官は坑内の現場を見たらその晩は会社のクラブでたらふく酒を飲んでいる。こんなことで真に監督の任がつとまるか

局長　そんなことは無いと思うがあるとすればそんなことが保安をおしばむので厳重に注意する

組合　局長の考え方と下部の考え方は違うのだ。これはわれわれが今から闘つていくが、官庁も会社も保安を第二義的に考えているが。保安管理者を定める場合、もその資格を定めず保安業務をやつたことのない人を会社が申告すれば、その通り監督部は許可している。そのために会社は保安部をウバ捨山のように考え保安部に行つた人は重役にもなれない。そのために本気で仕事と取り組めない。会社がわの保安委員もそうだ。こんなことでは保安は守れない

局長　法ではそこまで縛つており ませんが、私の方からも強く会社の方へ注意致します

組合　局長の考え方と同感じたことは会社が申告すれば、その通り監督部は許可している。そのために会社は保安部をウバ捨山のように考え保安部に行つた人は重役にもなれない。そのために本気で仕事と取り組めない。会社がわの保安委員もそうだ。こんなことでは保安は守れない

局長　法ではそこまで縛つており ませんが、私の方からも強く会社の方へ注意致します

組合　局長の考え方と下部の考え方は違うのだ。これはわれわれが今から闘つていくが、官庁も会社も保安を第二義的に考えているが。保安管理者を定める場合、もその資格を定めず保安業務をやつたことのない人を会社が申告すれば、その通り監督部は許可している。そのために会社は保安部をウバ捨山のように考え保安部に行つた人は重役にもなれない。そのために本気で仕事と取り組めない。会社がわの保安委員もそうだ。こんなことでは保安は守れない

大臣、局長を訪問する組合幹事と阿具根、山本両参議

先月の国会から

保安か生産か？

災害續發で大臣らと交渉

落した期末手當

濱崎さんがひろつて落し主へ

来年本業だが本業記念のアルバムが六百円だがまだ二百円しか払つておらず、あといつ払えるかわからない。しかし国鉄の労働者が解雇券をゆうずりしてくれるので、市価より安く買えるので助かるという。

このようにまささんの生活は決して明るくないが最近アメリカを始めとしてドイツ、トリエステ、フランス、モロッコ、オランダ、ギリシヤ、インド、ハンガリー、イタリーなどから十八通にのぼる激励文がとどき勇気づけられているという。

あわただしい歳末に咲いた美しい職務支部の船員特務手の濱崎ハヤ子さん（四三才）が期末手当の支給された二十二日の午後四時ごろしなければと考えたことは、常にしていた松本職場分会長の言葉が職場の大きな成長の一コマを見る感じだった。

花として正月に飾られる話。

給された二十二日の午後四時ごろ二人の子供のまつ家庭へと帰路につき所内の第六階切に通りかゝつた時、足下に自分が貰つたと同じような期末手当の入つた袋があつたので、何気なく取上げてみると八千六百円と記された期手の袋であつたのでびつくり、早速組合へ届けなくてはと瞬間的に気づき、紛失した人はどんなに心配しているだろうと、大急ぎで組合に連絡した。

ちようど組合には支部長が不在だつたのでそれでは翌日早速届けねばと翌二十三日、午前七時四十分ごろ組合事務所に来て支部長に様子を話し、紛失した人へ早急に連絡をお願いした。

浜崎さんの家庭は、子供二人と三人暮しで、中学校と鉱山学校へそれぞれ通学している状態で豊かな暮しとはお世辞にも言えない。苦しい生活を支えており、苦しい生活で、おまけに一週間ばかり前に盗難にあい、ゴツソリ品物は持つていかれるという災難にあつていたときだけに紛失した人の心配が身にしみて判つたと浜崎さんは自分の紛失物が手に戻つたような嬉しい顔をして話をされる温い人間性の持主で、紛失した人はいうに及ばず、職場でも浜さんの評判になつている。

直感的に組合に連絡し拾得した際、

スピード時代

きむら　よしを

三川坑前停留所生る

本紙『声』欄投稿実を結ぶ

◉…かねて要望されていた三川の第六回支部委員会で緊急動議がしているので同じく本所支部出身栗委員より出された。谷端支部長、市議経済委員中川末義氏と共同で坑前バス停留所が十二月十日より実現して組合員とその家族に喜ばれる様になつた。これは去る七月ごろの本紙声欄に「西鉄へお願いの投稿から三川支部委員会が取りあげ、華新市議経済委員の手によつて西鉄と交渉、幾多の難関を切り抜けて増設をかち取つたもので組合員の素朴な声に対する組合幹機関（政治局を含む）の好ましい反応の成果として称賛されている。

◉…この声欄への投稿者は緑が丘小鳩宮崎為義（36）氏で、かねがね不便を感じていたものだが、ある日職場でみんなと話しているうち、たまたまこの問題が出てなんとか三川坑前バス停留所が欲しいと意見が一致し「声」投稿となつた訳である。

◉…これに対して三川支部委員会が素早い反応を示し、八月三日現に努力して欲しいと要請した。

◉…広沢市議は経済委員を担当で委員会の決定をまつたえ、是非実現に努力して欲しいと要請した。

◉…広沢市議は経済委員を担当討議し西鉄側に設置方を要望した。

ところ、西鉄側も好意的に受取り善処を約したが、しかし事態はすらすら運んだ訳ではない。難航したのは、二十日ごろ八幡の間が短かいことと夏期一カ月間の短かい間だが、スワ橋の所で海水浴場行停留所が出来るので、三川鉱前に増設というと非常に区間が短かいそれでは困るというので、一時は絶望かと思はれたが、広沢、中川両議員の努力が成功したものだった。

◉…また、丁度場所が福銀前だつたので福銀側から、名前を福銀前にしてくれとの要望が出てかなり有力だつたが、昭和三十二年に大牟田市四十周年記念のため産業博覧会を計画しているので、炭都の中心として三川鉱の重要性を主張してがんばつた。

◉…経過としては色々難条件もあつたが、組合員の要望通り解決

原万田で川柳會を結成

（原万田発）

原万田社宅川柳愛好者では十二月十二日午後六時より同社宅荒木鹿丸氏宅で会員卅五名が出席して原万田川柳会の発会式を行い会長に峰乙吉氏、副会長に畑田栄氏外役員を決定した。峰会長は川柳を通じ親ぼくを計り地域の文化向上のために努力すべきであると発言。次に三川支部有働部長、岩田分会長、荒尾「番傘」正木暁氏の挨拶があつて式を閉じ引続き句会を開きそれぞれ次の作品が入選した。

（初氷）バリバリと葉も折れそうに初氷　木下　夏子

（突然）突然の出会挨拶まごつかせ　渡辺　光世

（火の用心）四十年コツコツたゝいた火の用心　横田　雪平

（クリスマス）靴下の夜れ縫した子が眠り　峰　柳水

（師走）家計簿師走の金をしかられず　畑田　栄

（忘れ）忘れるから定期券は紐　正木　暁

（スクラム）ジグザクへ来てスクラムの背が低い

俳句

新年雑詠

地下足袋のぴかぴか光る鉱山始　四山　那須　静峰

とぎ上げて仕繰斧にも飾海老　〃　〃

囚人らに日本間あり初句会　四山　黒岩　好美

沖縄へ行く石炭の初荷積む　〃　〃

船長の沖縄なまり初荷積む　〃　〃

無電機の故障を直り初荷積む　〃　〃

不知火の海底という初仕事　四山　田中　俳人

先山も同郷の人　初仕事　〃　〃

ストもなく鉱山に住みつき初仕事　〃　〃

＝川　柳＝

子に晴着きせて夫帰の寒正月　四山　福家　凡人

年だけの雑煮でたらぬ子の育ち

自嘲した酒は御神酒の名で飲まれ

随想

よいことは發展する

三川　草野　秋歩

端、いわゆる井戸端会議は主婦の話し合いの場に社宅の知恵の集まる場に成長しつつあるものと云う私は信じる。

ともあれ三人寄れば文殊の知恵！みんなの知恵を出し合つてきめたことに悪いことはない、きめたことを伸ばすためにみんなで努力する。したがつて徐々にではあつても必ず発展する。合理化も生活革命も私たち労働者が先達となつてやらねばならないと思う。

（二）年頭集会

私の住む若葉町の一班（卅二戸）で、いわゆる年頭集会をはじめたのは二十八年の正月からだつた。前にしてくれとの要望が出てかなり有力だつたが、昭和三十二年に大牟田市四十周年記念のため産業博覧会を計画しているので、炭都の中心として三川鉱の重要性を主張してがんばつた。

（三）一つの生活革命運動

簡易保険には団体払込みという割引制度がある。団体は十五口以上で、その割引率は掛金の六分である。やつている地域もあるでしようと思う。

私は生活革命運動の推進に当つては各地域の実態を知ることが大切であるし、また知らして欲しいと思う。例えば地域における経済制度なども……。

×　×

俳句

新年雑詠

地下足袋のぴかぴか光る鉱山始　四山　那須　静峰

とぎ上げて仕繰斧にも飾海老　〃　〃

囚人らに日本間あり初句会　四山　黒岩　好美

沖縄へ行く石炭の初荷積む　〃　〃

船長の沖縄なまり初荷積む　〃　〃

無電機の故障を直り初荷積む　〃　〃

不知火の海底という初仕事　四山　田中　俳人

先山も同郷の人　初仕事　〃　〃

スト明けの酒は御神酒の名で飲まれ

＝川　柳＝

子に晴着きせて夫帰の寒正月　四山　福家　凡人

年だけの雑煮でたらぬ子の育ち

自嘲した酒は御神酒の名で飲まれ

三鉱労組

結成十周年記念文藝募集

来春二月三日の三鉱労組結成十周年記念事業の一環として「みいけ」編集部では記念文芸特集を左の要領で行うので奮つて応募下さい。

△創作　四百字詰十枚以内、選者＝野間宏、賞金入選一席一千円、二席七百円、三席五百円

△詩　一人一篇、選者野間宏、賞金入選一席五百円、二席三百円、三席二百円

△短歌　（題＝十年）一人二首、選者＝岩本宗一郎　賞金天三百円、地二百円、人百円

△俳句　（題＝当季雑）一人二句、選者＝吉岡禪寺洞　賞金右同

△川柳（題＝十年目）一人二句、選者＝栗原農夫、賞金同

△児童綴方（題＝友だち、おこづかい）編集部選、四百字詰二枚以内、賞金右同

△感想文（題＝十年の斗いに学ぶもの）編集部選、四百字四枚、賞金一位五百円、二位三百円、三位二百円

△寫眞（題＝自由）大きさキャビネ、一位五百円、二位四百円、三位三百円、その他各種佳作にも謝礼進呈

※締切＝一月十五日

※宛先＝三鉱労組本部「みいけ」編集部及び各支部教宣部

コント

牧鶏雄鶏（一）

北村千麻夫

竪坑の捲きやぐらが四方を山につたのである。戦争がおわつてもかこまれて立つている。周囲の山同じように貧乏でうだつの上らない大刈の親父は、雇作が冷酷でケチで、雑役している弟妹をないがしろにするので金持になつたのを遠くの桔木のこずえも暖い日をあびてひかつている。

大刈の親父をはじめ、その家族七人は掘割みたいな人住宅街の、いちばん上つぶちに住んでいた。親父は永わずらいのあとの、まだ衰弱の色がとれないからだを、そつと掘割の中には誰もいない。しかしあるだけでも思い出してみたが、ず親父の尻の下でしきりにうごきまわつている気配がある。めんどりが綿の下の鶏舎をあるきまわつているのだ。

「クークークーコツ」と、なんだか鳩のなくようなこえもきこえる。

大刈の親父は手をのばして、もは考える。なぜ炭鉱で二十何年も働いて、不正をことはこれつぽちもした覚えのないおれたちが、一時にしろなんにしろ面白い思いもしたもので、大牟田における労働者の実力の伸張を示すものといえよう。

◉…また、この問題は外来運動者として、三年前から響員会署名運動等を通じて要望が出ていたもので、組合政治局員を通じて永年のなやみが解決された訳であ

◉…なお、広沢、中川両氏の努力により夏休み一カ月の間、新港橋水路坑前に臨時停留所を設け、すでに夏は実施しているが、これも附近の社宅の人々からようこそはれていた。

◉…なお、広沢、中川両氏の努力により夏休み一カ月の間、新港橋水路坑前に臨時停留所を設け、すでに夏は実施しているが、これも附近の社宅の人々からようこそはれていた。

貧乏でうだつの上らない大刈の親父は、雇作が冷酷でケチで、雑役している弟妹をないがしろにするので金持になつたのを遠くの桔木のこずえも暖い日をあびてひかつている。

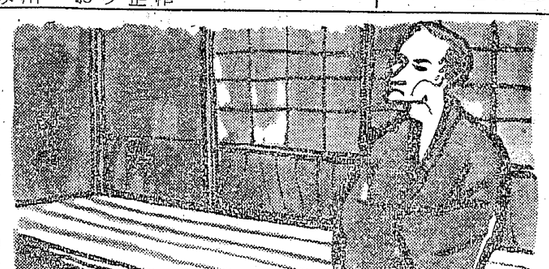
大刈の親父をはじめ、その家族七人は掘割みたいな人住宅街の、いちばん上つぶちに住んでいた。親父は永わずらいのあとの、まだ衰弱の色がとれないからだを、そつと掘割の中には誰もいない。しかしあるだけでも思い出してみたが、ず親父の尻の下でしきりにうごきまわつている気配がある。めんどりが綿の下の鶏舎をあるきまわつているのだ。

「クークークーコツ」と、なんだか鳩のなくようなこえもきこえる。

大刈の親父は手をのばして、もは考える。なぜ炭鉱で二十何年も働いて、不正をことはこれつぽちもした覚えのないおれたちが、一時にしろなんにしろ面白い思いもしたもので、大牟田における労働者の実力の伸張を示すものといえよう。

◉…また、この問題は外来運動者として、三年前から響員会署名運動等を通じて要望が出ていたもので、組合政治局員を通じて永年のなやみが解決された訳であ

◉…なお、広沢、中川両氏の努力により夏休み一カ月の間、新港橋水路坑前に臨時停留所を設け、すでに夏は実施しているが、これも附近の社宅の人々からようこそはれていた。



組合のはなしで、そこをなんとか説明していたが、どうも大刈の親父は思いだせない。とにかく、団結ということはいい。それ以上考えるのは疲れた。

めんどりは土あそびでほりくぼめた穴の中にじつとうづくまつて日向ぼつこだ。みていると、めんどりの眼がじつと大刈の親父をみている。大刈の親父は、それに気づくと、また「ふん・ふん」と感心させられるような気分を覚えたがらソどすん……と音がした。たてつけの悪い声で、あかないかと思つて力を入れると、力あまつて、そんな音をたて、よくおどされたにわとりをふらさげている。大刈の息子が、裸にかかアと息子のいうことだから止むえないところではあつた。黒のである。

「オツー」と親父はおどろいた。いやおどろくのがおかしいので、息子が「締め」にいつたのを忘れていたのである。大刈の親父は、「おいおい、そいつをここにぶらさげて来てはいかん。めんどりが魂消るぞ」

と腰をうかした。

「なーンや。おれが魂消たはいい」

大刈の息子は、まるまるふとつたおんどりを「流し」におくと隣側に来た。もう親父よりずつと大きい青年である。

（三鉱文サ協会員）